

令和3年度 東久留米市立 第十小学校 学校評価報告書

<p>学校教育目標</p>	<p>○よく考える子(知) ○やさしい子(徳)【重点】 ○たくまishi子(体)</p>	<p>教育 ビジ ョン</p>	<p>【目指す学校像】児童・教職員が生き生きと活動し、地域に信頼される学校</p>	
			<p>【目指す児童・生徒像】児童が自ら進んで学び、楽しく生活できる学校</p>	
			<p>【目指す教師像】教職員一人一人熱意と使命感をもち、和を大切に連携して取り組む学校</p>	
<p>前年度までの学校経営上の成果と課題</p>	<p>【成果】○「ふれあい月間」における人権に関する授業の実施、学校公開時の人権集会の実施等、様々な機会を有効に活用し人権教育推進に向けた取り組みを行い、児童の人権感覚の育成に努めた。また、教員一人一人が「自分も友達も大切に」学級経営を目指し意識して取り組むことで、児童の人権意識を高めることができた。 ○「ベーシックドリル」の活用、教職員ボランティアを活用した補修学習の実施等、学習内容の基礎基本定着を図り、様々な取り組み実施した。 【課題】○下里小との合併により新たな人間関係ができた。児童の不安を取り除き、良い人間関係が築けるよう意図的に教育活動を行っていく必要がある。(・学級作り・縦割り活動・保護者との連携・SCとの連携) ○授業時数の減った中、確実な学力の定着が課題である。</p>			

東久留米市第2次教育振興基本計画				中期経営目標	短期経営目標	評価指標・評価基準		自己評価		学校関係者評価		次年度の方策
No.	四つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」	(令和5年度までの3年間)	(1年間)	取組指標	成果指標	取組	成果	評価	コメント	
1	I 健全育成	安全・安心な学校づくり	人権教育の推進	「自分も大切に、友達も周りに人達も大切に」子供たちを育てる。	教員の人権感覚を磨く。	・自分も友達も大切にする学級経営を行う。 ・体罰や不適切な指導をゼロにする。	・自分も友達も大切にする学級経営ができていく。4 ・集団として、教員全員の人権感覚を磨いている。3 ・個人として、教員の人権感覚を磨いている。2 ・不適切な指導・体罰をゼロにする。1	3.6	3.3	3.8	・人権尊重推進月間の取り組みとして、児童作文の部で「教育長賞」受賞者がいた。自分の思いを文章で表すこともできており素晴らしい。 ・いじめの場面は見たことがない。	・年3回の「ふれあい月間」では、人権に関する授業の全クラス実施を行うとともに、全校朝会での講話、集会等の活用や、人権に対するポスターや作文、標語等の作成を通して人権に対する意識を高める。 ・道徳教育の重点目標を「思いやりの心」とし、全教育活動を通して育成を図っていく。 ・「人権プログラム」を活用し教職員の人権意識を高めるとともに、服務研修を通して、体罰は絶対に行わないことを徹底させ、児童の心の育成を行う。
2	I 健全育成	安全・安心な学校づくり	いじめ防止対策推進基本方針に基づいた取り組みの推進	自尊感情が高まり、他者理解が深まって全員が楽しく学校に通う。	互いを認め合う学級の中に自分の居場所がある。	・いじめを許さない学級作りをする。	・自尊感情が高まり、他者理解が深まって全員が楽しく学校に登校する。4 ・互いを認め合う学級の中に、児童の居場所がある。3 ・いじめに関する授業を3時間実施。2 ・深刻ないじめが発生しない。1	3.6	3.2	3.5	・児童の登下校の見守りがたくさんされていて安心である。 ・地域と連携して安全指導、安全教育が進められている。	・学期に1度「いじめアンケート」を実施するとともに教職員がいじめに対するアンテナを高く持ち、いじめの早期発見解決を目指す。 ・あらゆる教育活動の中で心の育成を図り、差別や偏見を、いじめを許さない雰囲気をつくる。 ・全児童が年2回担任との個人面談を行い、思いや悩みを伝えやすい環境を作る。また、5年生は全員スクールカウンセラーとの面談を行い児童の内面理解に努める。
3	I 健全育成	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実	特別支援教育の目的を保護者が理解し、必要な支援を積極的に受けていこうとする土壌づくりをする。	特別支援教室についての周知と理解促進を行う。	・地域や保護者への情報発信を年1回以上行う。 ・校内委員会を十分に活用する。	・あすなる教室の良さについて保護者が十分に理解している。4 ・あすなる教室についてについて保護者が理解している。3 ・周知、活用について消極的である。2	3.5	3.2	3.7	・50周年に向けて、「愛校心」「地域愛」の文章を校長が学校便り「こぶし」に記載し、育成が図れている。 ・竹の子まつりの小刀の指導を継続してほしい。危ないものも使い方次第である。	・年度初めの保護者会であすなる教室の紹介を行うとともに、学校だよりでも紹介し、あすなる学級の目的や役割について保護者への啓発活動を行い適正な利用につなげていく。 ・児童の学習や生活上の課題についてスクールカウンセラーや巡回心理士と連携しながら見取り、支援を行っていく。保護者とも情報交換をしながら、より良い支援の方法をさぐり実践していく。
4	I 健全育成	児童・生徒の主体的な取組	児童・生徒の主体的な取組	創立50周年に向け、児童に「愛校心」「地域愛」を育成する。	様々な教育活動を通して学校や地域の特性や良さに着目させ「愛校心」「地域愛」を育成する。	・「道徳」や「社会」、「総合的な学習の時間」等の授業を通して「愛校心」「地域愛」を育成する。 ・「たけのこまつり」を通して学校や地域の良さに目を向けさせる。	・児童が学校や地域の良さを感じる事ができている。4 ・児童が学校や地域の良さに触れることができている。3 ・児童が学校や地域の良さに触れる機会を設けている。2 ・児童が学校や地域の良さに触れる機会を用意していない。1	3.6	3.6	3.9	・一人一台のタブレット使用について、教育の在り方も時代とともに変わっていく。人と人とのつながりも大切にしていってほしい。便利さが人の脳を低下させることもある。考えることをしっかりさせてほしい。	・カリキュラム・マネジメントにより、引き続き地域の人材、地域の自然や施設等を活用し、地域の良さが実感できる学習活動を行っていく。 ・開校30周年に向けた「児童集会」「式典」「記念誌作成」を通して児童が学校や地域の良さを実感できる機会を多く持てるようにする。 ・「竹の子まつり」を楽しむことを通して、第十小に受け継がれてきた素晴らしい文化を知り、お世話になった地域の方への感謝の気持ちをもち育てようとする。
5	II 学力向上	児童・生徒の主体的な取組	各種学力調査の活用	「主体的、対話的で深い学び」について理解し、授業の中で意図的に実施する。	市の学力調査の結果で「思考力・判断力・表現力」の平均が、全国平均からマイナス3ポイント以内。	・市の学力調査の結果で、全国平均を目指す。	・市の学力調査の結果で、全国平均を目指す。 ・全国以上 4 ・-3ポイント以内 3 ・-5ポイント以内 2 ・-5ポイント以上 1	3	2.8	3.2	・オリンピック・パラリンピックの精神がオリパラ教育によって高められた。 ・先生たちに気持ちのゆとりがあり、温かい学校という印象がある。引き続きよろしくお願ひします。	・各種の学力調査結果を分析し、児童の課題を明らかにして実態に基づいた授業改善プランを作成し週ごとの指導計画の作成に具体的に生かしていく。児童の主体性を育むために「ねらい」を明らかにし「見通し」と「振り返り」を重視し、一斉指導と個別学習を効果的に組み合わせた指導形態を工夫し、児童の思考力と判断力を育む。 ・家庭学習や放課後の個別指導を活用し児童一人一人に基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させるながら指導方法を工夫し、主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を行っていく。
6	II 学力向上	確かな学力の育成	教員の授業改善、指導力の向上の推進	ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、全ての子供たちが分かる・楽しい授業をする。	全ての授業でユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を実施する。	ユニバーサルデザインを取り入れた授業の実施。	・UDの視点を取り入れ、全ての子供たちが分かる、楽しい授業をする。4 ・8割の授業で実施 3 ・6割の授業で実施 2 ・6割未満の授業で実施 1	3.5	3.3	3.5	・校長先生をはじめ先生方が尽力されて1年だったと思います。その様子を学校便り等で拝察させていただきました。 ・「十小の子供の安全を守る会」は今も継続されているでしょうか。お世話になっている方々の高齢化が進み、新たな組織人員の構成にはご苦労が多いと思います。	・各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動などの学習活動において、「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた授業展開を工夫し「誰もが分かる・できる」内容になるように授業改善を試みながら授業力を高める。校内研究の視点としても「ユニバーサルデザイン」を取り入れ、学年や単元ごとに、どの児童も見通しをもって学習に取り組むための工夫や取組について検証し、より分かる、楽しい授業の実施に努める。
7	II 学力向上	確かな学力の育成	体験的な活動	地域と連携した学習活動を行う。	「総合的な学習」の時間を中心に、地域と連携した活動を充実させる。	・各教科指導と合わせて5時間以上実施する。	・地域で地域と連携した学習の活動ができる。4 ・実体験6時間実施 3 ・実体験3時間実施 2 ・実体験3時間未満実施	3.3	3.2	3.4	・「十小の子供の安全を守る会」は学校、地域、保護者、警察の連携しながら改善を図っているところが良い。	・カリキュラム・マネジメントにより、今年度活用した地域人材活用した教育や地域資源を生かした教育を 教育課程に位置付け行っていく。 ・新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、保護者の協力も生かした教育活動を行っていく。
8	II 学力向上	確かな学力の育成	学校図書館の活用と充実	読書活動を組織的に実施し、児童の言語感覚を磨く。	図書館担当と学校司書、図書ボランティアの連携を深めて読書活動を推進する。	・児童が積極的に学校図書館を利用し、貸出数が増加する。	・読書活動を組織的に推進し、児童の言語感覚を磨いた。4 ・学校図書館の利用・貸出数の5割増加。3 ・2割増加 2 ・2割未満増加 1	3.1	3.1	3.3	・勤務時間についてはよくわかりませんが、学校に求められる事柄が多く、また、コロナ対策で先生方のご負担が多いことは否めないと思ひます。	・読書の機会を増やすために、児童の共有場所に新しく本棚を設置し、さらなる環境整備に努める。 ・朝読書の時間を設定し読書の機会を確保する。図書委員会のアイデアを生かし、全校児童の読書活動が活発になる取り組みを行っていく。「読み聞かせ」「ブックトーク」「推薦図書の紹介」など、図書館司書の活用により、読書活動の推進を図る。また、図書館司書や保護者ボランティアの協力のもとに調べ学習のための環境整備に努め情報活用能力の向上を図る。
9	オリンピック・パラリンピックの精神を生かした教育の充実	個性を認め合う教育の推進	体力向上に関する指導の充実	「スポーツ志向」「ボランティアマインド」「障害者理解」「伝統文化の継承」をオリパラ教育によって高める。	「スポーツ志向」「ボランティアマインド」「障害者理解」「伝統文化の継承」の活動を通して、児童の「東京オリパラ」への関心を高める。	・オリ・パラ副読本を活用した授業の実施。 ・「なわとび小助のなわとび」指導に実施。 ・竹の子まつりの実施	・「スポーツ志向」「ボランティアマインド」「障害者理解」「伝統文化の継承」をオリパラ教育によって高める。4 ・オリパラ教育35時間以上実施 3 ・オリパラ教育25時間以上実施 2 ・オリパラ教育25時間未満実施 1 ・PTA・地域と連携して安全指導・安全教育を進める。	3.1	2.5	3.7	・一年間管理職の皆様、教職員の皆様お疲れさまでした。教員は自己評価が厳しくなる傾向がありますね。	・竹の子まつりを通して児童に日本に伝わる伝統文化の良さに触れさせ、伝統の文化や技を継承し伝えていこうとする気持ちをもちさせる。 ・今年度学んだ「オリンピック・パラリンピック」の精神をレガシーとし、全教育活動を通して継承していく。
10	III 教育環境の整備	安全・安心な学校づくり	地域や保護者と連携した防災教育	PTA・地域と連携して、安全指導・安全教育を進める。	地域安全に対して、計画的・実践的に指導する。	・交通事故ゼロ。 ・不審者実害ゼロ。	・地域安全に対して、計画的・実践的に指導している。2 ・交通事故あり。2 ・重大な交通事故・不審者実害あり。1	3.2	3.1	3.7	・警察や消防署、市と連携した防災教育を引き続き行っていく。 ・季節や時期に合った交通安全への呼びかけを行い児童の安全を図る。 ・「十小の子供の安全を守る会」を開催し、地域の方々から子供たちの様子を見守っていただくとともに情報交換を行い、児童・保護者の交通安全への注意喚起を行っていく。	
11	III 教育環境の整備	各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進	ライフ・ワーク・バランスの改善	勤務時間週45時間以内を徹底する。	勤務時間週60時間以内を厳守する。	・勤務時間週60時間以内の厳守。	・週60時間以内10割 4 ・週60時間以内9割以上 3 ・週60時間以内8割以上 2 ・週60時間以内8割未満 1	2.9	2.7	3.1	・組織、分掌を見直し、仕事量の偏りを防ぐとともに会議の精選、夕方の連絡会の回数を減らすなど、事務仕事を行う時間の確保に努める。 ・日常業務の中からスクールサポートスタッフへ依頼できる仕事を洗い出し、さらなる活用を模索する。	